

「特別の教科 道徳」の実践

I はじめに

中学校では本年度から「特別の教科 道徳」がスタートした。昨年度から様々な研修会を設け、本校では年度当初に全職員で今年度の道徳教育への取組について共通理解を図り、実践を行うこととなった。まず、評価について方法や内容について研修を行った。また、授業で道徳性に係る成長の様子を評価するため、担任が生徒の学びを見取ることができるよう、ローテーション道徳の意義を共通理解した。そして、学年のみならず学校全体、更に家庭も交えて生徒の道徳性を養うため、全校道徳や親子道徳の持ち方を検討した。また、学年の実態や学校行事と絡めて、その時期その時期に合わせた価値項目を学年で検討し、年間指導計画を作成した。生徒主体で探究的なロングスパンのプロジェクトを組み、特別活動や総合の時間の学習と意図的に関連させ、道徳的な判断力や心情、実践意欲を育てることを目的として取り組むことにした（詳細は特別活動・総合的な学習の時間のProjectの項で）。ここでは今年度の道徳科としての主な取組について述べる。

II 今年度の実践

1 ローテーション道徳の実践

道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行うものであるが、道徳の授業はどちらかというと学級担任中心に行っていた。しかし、道徳には評価が伴い、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編」第5章第2節2(3)「評価のための具体的な工夫」において、「年に数回、教師が交代で学年の全学級を回って道徳の授業を行う」といった取組も効果的である。」とあるように、生徒の学びを見取るためには、学年がチームとして道徳の授業を実践・評価するといった組織的な指導体制を整備することが必要であると考えた。

そのため、学年会で生徒の実態や、その時期に必要な価値項目を検討し、授業の流れや発問、見取るポイントなどを話し合い実践した。本校は単学級であるためチームとして取り組む事が比較的容易であり、また複数の目で生徒の学びを見取ることができたことが成果としてあげられる。また、各学年だけでなく、企画委員会の場で道徳の授業について意見交換するなどして、学校全体で道徳教育を推進することができた。

2 全校道徳の実践

道徳科の授業では、生徒が道徳に関する内容を学び、考え、話し合う中で、これまでの自分の人生を振り返り、自分の成長を実感することが大切になる。本校は「風のひろば」を活用して異学年での学びを展開しているが、今年度は「生きているのはなぜだろう」というテーマで全校道徳を行った。

「今生きていることの価値」を問い、「今後どう生きていきたいか」異学年でグループを編成し、話し



【6.27 全校道徳 風のひろばにて】

合う授業を行った。発達段階や家庭環境、生育状況も違うメンバーが集まり、話し合う中で、自分を見つめ直し、改めて生きるのは当たり前ではないことや自分のこれからの生き方を考えるきっかけになった。

3 親子道徳の実践

Autumn Project のねらいは「地域とつながり、地域に還元する体験学習により、地域に生きる人材を育成すること」である。道徳科においても「地域を愛する心」をテーマに親子道徳の授業を行った。まず、学年ごとに「郷土愛」に関する授業を行った後、改めて



自身の安居地区への思い（課題とよいところ）を振り返り、同時に安居に暮らす家族に同じ質問を投げかけ、回答してもらった。

当日は、安居地区出身で東京からUターンし、福井でゲストハウスを運営していらっしゃる森岡咲子様を講師としてお迎えし、「ローカルで生きる」というテーマで講演していただいた。その後、異学年小グループで安居地区のいいところと課題のアンケート（生徒・保護者）結果から、安居地区に暮ら

[1.23 講演「ローカルで生きる」森岡氏]

す保護者からの深いメッセージを読み取り、「自分達は安居地区のために何ができるか」を考え、互いの考えを全体で共有し合った。

この授業には保護者の方の参加もいただき、御意見をいただく中で、生徒達はふるさとに対して多面的・多角的な考えを巡らすことができた。また、時後活動として、授業で学んだことを家庭で保護者に伝え、保護者と語り合ったことをクラスの道徳の授業で共有し、深める時間ももった。まさしく、生徒達にとって、「ふるさとを愛する心」を自分事として考え、多面的・多角的に考え、議論する道徳の実践となった。



[異学年小グループで協議を重ねる生徒]

III 振り返り

これら3つの実践は教師の共通理解のもと、協働で取り組むことにより成果をあげることができたと考えられる。一方、更なる課題も明らかになった。評価も大切であるが、評価の価値があるような授業を全体で図っていかなければならない点である。Projectとも関連づけながら、より生徒の道徳性を養うことができるように、発問の工夫や板書・ワークシートの検討など研究を進めていく必要性を感じた。

(文責 高嶋 和代)

【引用文献】中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編

池谷祐二（絵）田島光二 「生きているのはなぜだろう」 ほぼにち 2019